

持56

255

神道丸山教会葬祭略式

014265-000-1

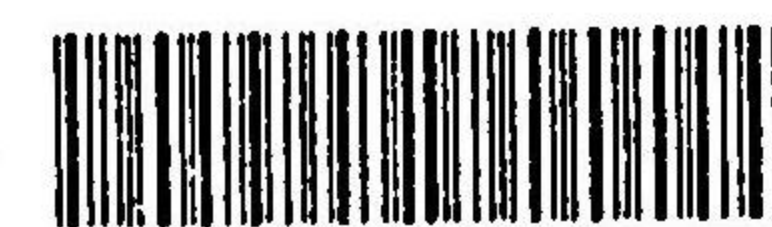
特56-255

神道丸山教会葬祭略式

伊藤 国吉/編

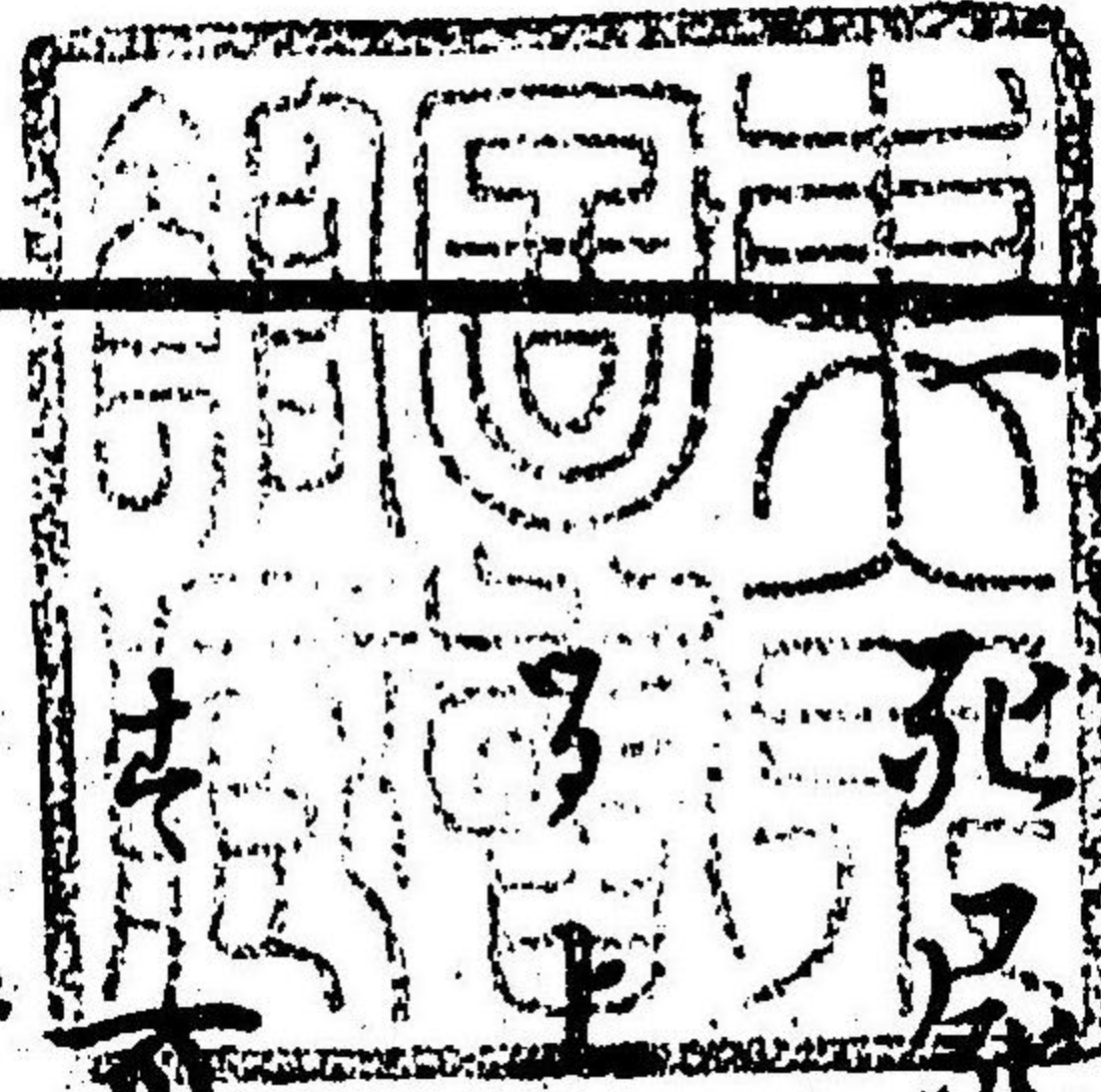
M19

ABB-0600



明治二十年四月六日内務省交付

# 神道丸山教會葬祭異式



死屍は身襖みそぎにて白布しろぬのにて拭ぬぐへ  
 南枕みなまくらと為なす  
 総すべて清潔きれいと為なす

一 死屍あまからを入棺くわんまいる「坐棺」の首せうは下さげ髪かみ

少あまく浅黄あきぎの法衣どういを着ませ額ひたい

又また宝冠ほうくわんを裁いたせ神鏡かみかたがね及胸むね札ふしを懐くわい

中ちゆうに納おさ免ま多た子こ十じゆ本ほん骨こつの白しろ扇あふぎを持した

をを盤ばんにに

但たゞ一いつ都つ台たいに依よりて佛ぶつ法ぽう品ひんをを用もち

ふれは普ふ通つうの衣き類るいをを着まき

毛さまた妨たがげを

一ま前まへ條へ死し如ごとく死あき屍がらをを装よそ束わひし上うへ棺くわんに

入いり時ときは喪も主しゆ親おや族おや及および立たち會あひ人じん

一ご回まいさんごげまい此こ淨じゆ文もん式しき三さん回まい唱なまいご次ご

二せ五ご清じゆ蘇そ方ほう本ほん地ち蘇そ方ほう尺せき西さい皇くわ先わう

三み彌た少い七しち回まい唱なまふごべご

一み福ふく書ま式しき神かみ意いをを書かきご移うつすごのご式しき

は死し去しよせご一いつよご至し廿に四じゆ時じ間かんのご後ごよ

執しつりごすごべご

柩いづきのご四し方ほうへご松まつ樹じゆをを結ゆい附ふけご式しき場ばにご据すま

置おく可かし

但たし式場しきばは遠とほるたるべし

神饌しんせんと酒饌さけあぢ水の三種みくさより寸酒すんしゅは三さん

合あひ三さん寸すん三さん才さい但たし例れいすい葬まう敷しきけあらはし

鮓あぢは乾かたるを二枚ふたまい糸いと抱かかむせらる

年の末すえは法ほつい浄じやうあるを供そなふ可かし

但たし乾か饌あぢのままき時ときも饗あむ可かし

かつきふーかへもちい

堅魚かたぎを代用かへもちいし尚上かたぎ等式かへもちいふ

禮れいば外ほかは十種じゆくさの神饌しんせんを一基いちだい

は奉もりて供そなふべし

一長十山の劔つるぎは繪圖えずの如ごとく四箇よつを

製造つくりし埋葬まいさうせし冢つかの上うへに建たて置お

く壙もつとに埋葬まいさうせし冢つかの日ひは四箇よつを

の壙いぢじうを建たて七日祭なぬかまつりに貳に日ひを

建<sup>た</sup>三<sup>さん</sup>四十九<sup>しゅうじゅうきゅう</sup>日<sup>にち</sup>祭<sup>まつり</sup>を<sup>を</sup>建<sup>た</sup>て

百<sup>ひゃく</sup>日<sup>にち</sup>祭<sup>まつり</sup>は<sup>は</sup>四<sup>し</sup>旗<sup>はた</sup>を<sup>を</sup>建<sup>た</sup>つべし

旗<sup>はた</sup>は<sup>は</sup>繪<sup>え</sup>圖<sup>ず</sup>の<sup>の</sup>通<sup>と</sup>り<sup>り</sup>木<sup>も</sup>綿<sup>めん</sup>を<sup>を</sup>製<sup>つく</sup>造<sup>くり</sup>し

導<sup>みち</sup>旗<sup>ひまはら</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>び</sup>五<sup>ご</sup>色<sup>しき</sup>旗<sup>はた</sup>哉<sup>や</sup>用<sup>もち</sup>ゆべし

但<sup>たゞ</sup>一<sup>いつ</sup>場<sup>ば</sup>官<sup>あひ</sup>に<sup>に</sup>依<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>紙<sup>か</sup>製<sup>み</sup>して<sup>して</sup>毛

妨<sup>さまた</sup>げ<sup>た</sup>ず

一<sup>い</sup>供<sup>そな</sup>花<sup>へ</sup>等<sup>な</sup>松<sup>まつ</sup>樹<sup>の</sup>一<sup>いつ</sup>葉<sup>は</sup>を<sup>を</sup>用<sup>もち</sup>ひ<sup>ひ</sup>又<sup>また</sup>上<sup>じやう</sup>

等<sup>とう</sup>式<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>た<sup>た</sup>ば<sup>ば</sup>外<sup>ほか</sup>に<sup>に</sup>造<sup>つく</sup>り<sup>り</sup>花<sup>はな</sup>を<sup>を</sup>保<sup>あは</sup>供<sup>や</sup>ふ

是<sup>こゝ</sup>妨<sup>さまた</sup>げ<sup>た</sup>ず

一<sup>い</sup>名<sup>な</sup>旗<sup>はた</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>び</sup>墓<sup>はか</sup>標<sup>ぶ</sup>を<sup>を</sup>繪<sup>え</sup>圖<sup>ず</sup>の<sup>の</sup>如<sup>ごと</sup>く<sup>く</sup>製<sup>つく</sup>造<sup>くり</sup>

き<sup>き</sup>べ<sup>べ</sup>一<sup>いつ</sup>む<sup>む</sup>も<sup>も</sup>墓<sup>はか</sup>標<sup>ぶ</sup>を<sup>を</sup>長<sup>なが</sup>十<sup>じゅう</sup>山<sup>さん</sup>敷<sup>しき</sup>の

後<sup>うしろ</sup>習<sup>しやく</sup>は<sup>は</sup>立<sup>た</sup>つ<sup>つ</sup>可<sup>べ</sup>し

但<sup>たゞ</sup>一<sup>いつ</sup>用<sup>もち</sup>ふ<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>用<sup>もち</sup>ひ<sup>ひ</sup>ざる<sup>る</sup>は<sup>は</sup>場<sup>ば</sup>

官<sup>あひ</sup>に<sup>に</sup>依<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>適<sup>て</sup>宜<sup>き</sup>なる<sup>る</sup>べし

一 墓碑は備田の如く製造し表へ  
 心天寶地徳皇行清徳皇行と左右  
 記し裏へ俗名及し死亡せし  
 号月日を記し萬代不朽を旨と  
 すべし

但し生涯鰥寡よて死しる者  
 者の碑も男は清徳皇の女は

地徳皇初とのみ記すべし

葬祭式次第

- 一 棺を式場は掘置き先づ招魂の祭
- り次は葬祭の祭り其次第は大
- の如くすべし
- 一 齋以下親族は至る迄一回座は
- 整き一様すべし

但さい祭司トは右みぎの方ほう来しま及および親しん

族ぞくは左ひだりの方ほう座ざすべし

一 装束しょうそく係進がうきんて棺前くわんぜんに饗案せんあんを置おき

之これに香かを据すえ置おくへし

一 神饗しんせん係進がうきんて供饗くわうを索もとすべし

一 齋主さいしゆ祝詞のりとを祝詞のりとは末すえを奏そうせ以この百あひ一回いちげん

低頭かうりう畢せりて坐まは履いづはし一拝いつぱいすべし

一 副齋ふくさい主しゆ副齋ふくさい注しゆを欠かく時ときは進すすてさんげ

の御文ごぶんを三曲さんきよく天明てんめい海天てんかい百回ひゃくたいを一

回ごうと共とも唱となひ畢おはりて座ざを履ふし

一 拜いつぱいすべし

一 装束しょうそく係進がうきんてある盛もりたる皿さらを

松まつの小枝こえだ杖案つゝえの上うへに裁のせ棺前くわんぜんに供

ふを

新編大日本書紀

一 齋主祭司及喪主親族等一人宛

順次に進み出で棺に向ひて一拜

松枝小枝を以て皿の水を二度

手向くべし

一回あるをま向後片は装束係り之

を撤きべし

一 撤饌の後神酒を齋主以下一回

行列次第

一 齋祭司

二 五色の旗 九右

三 副齋主 馬車腕車徒歩遠るるべし

一 齋て后出棺すべし

一 喪家を出棺し墓地に到るまで

一回天明海天を唱ふべし



新編 山本流儀

四 齋 さい 前 まへ 目 め

五 松樹 まつ 左 ひだり 右 みぎ

六 導旗 みちびき

七 造花及時花 つくろいばな 左 ひだり 右 みぎ

八 長十山劔及供饗の鱈 ながじゅうざんけん 喪 しゆ 捧持 たもたへ

但し傳を要するも妨げなしと雖も喪に  
幼少う又は病者にあらずば成文に後  
歩すべし

九 名旗 な 旗 はた

十 柩 ひつぎ

十一 墓標 はかどろ

十二 親族及び會葬人 きんぞく

以上

一 埋葬地 まいざうぢ 於 お 於 お 先 まへ 齋 さい 以下 いひ 下 した 一回 いちど 進 すす

ニせい 藤方 ふじ 五地 ごぢ 藤方 ふじ 尺 せき 西皇 せいこう 先 まへ 鞠 まり と三

田 たに 唱 なむ 止 とど 畢 はつ 埋 うづ 葬 め 墓 はか 冢 のま 四

申道元山本流儀

寸四方の穴杖穿ち供へたる糖を埋  
め其上にて松香三束を焼中ら一回  
天明海天と百回唱ふ可  
但一墓所は一威南白子為すべし  
一斎主祭司親族衆家は帰一後を  
為し而る後書案を執行の上退散  
すべし

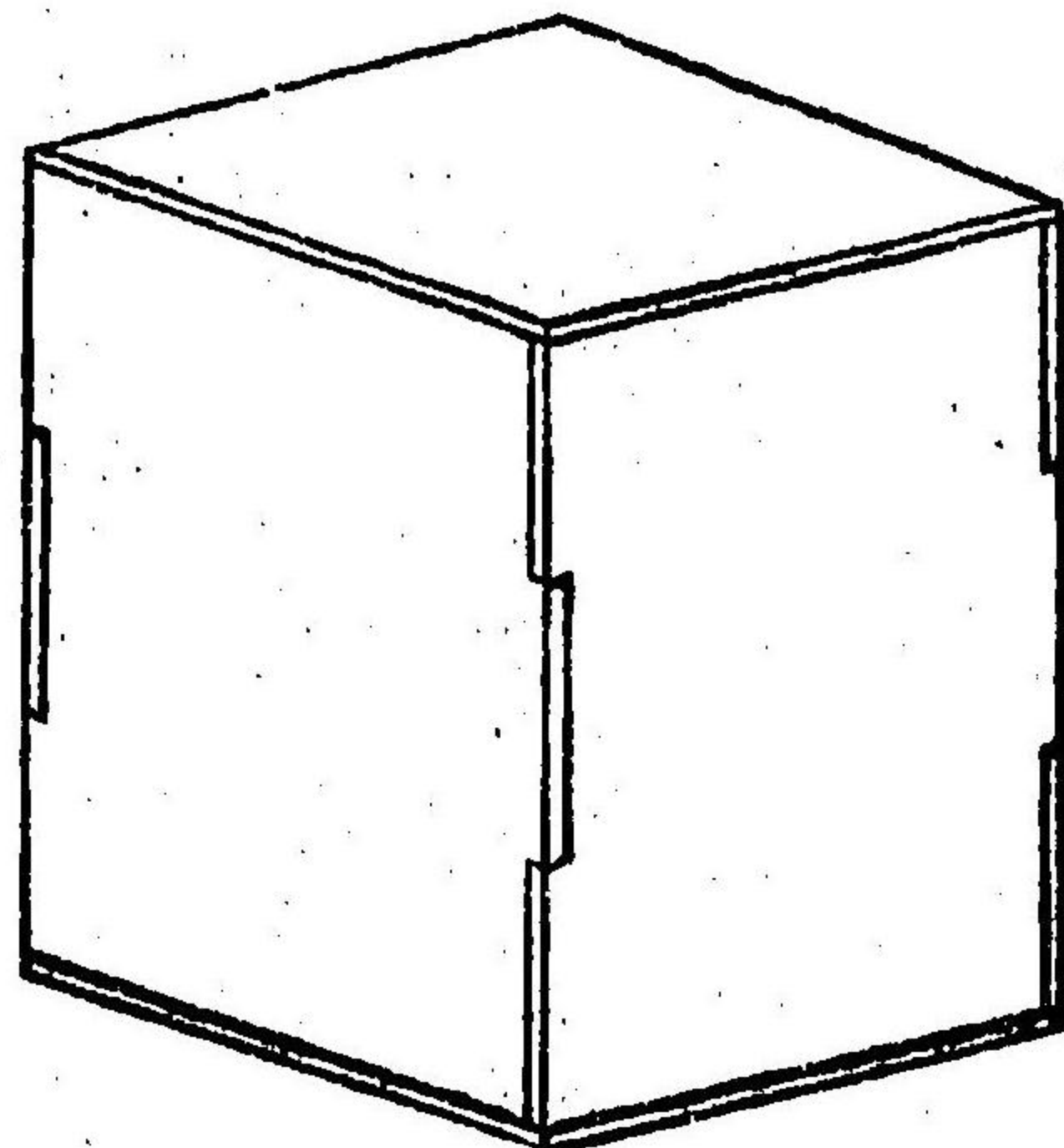
一 華祭に立會たる斎主祭司信徒他の人は  
此の限は衆家にて飲食を禁止す  
糖も一日以上は直るゝ又は書方の者  
は此限にあり  
以上の式曲は於て奏樂を用ふる  
と否とは適宜に任すべし  
追祭次第

一 追祭は七日四十九日百日少くも神  
 前の装飾及齋主祭司親族の座敷  
 茶條神例のまじりにして齋主祝  
 詞を奏し後一回まで神歌の御文  
 神酒の御文を各三回唱ひ次日天  
 明海天を百回唱ふべし  
 百日祭は新書を祖先の書と回殿

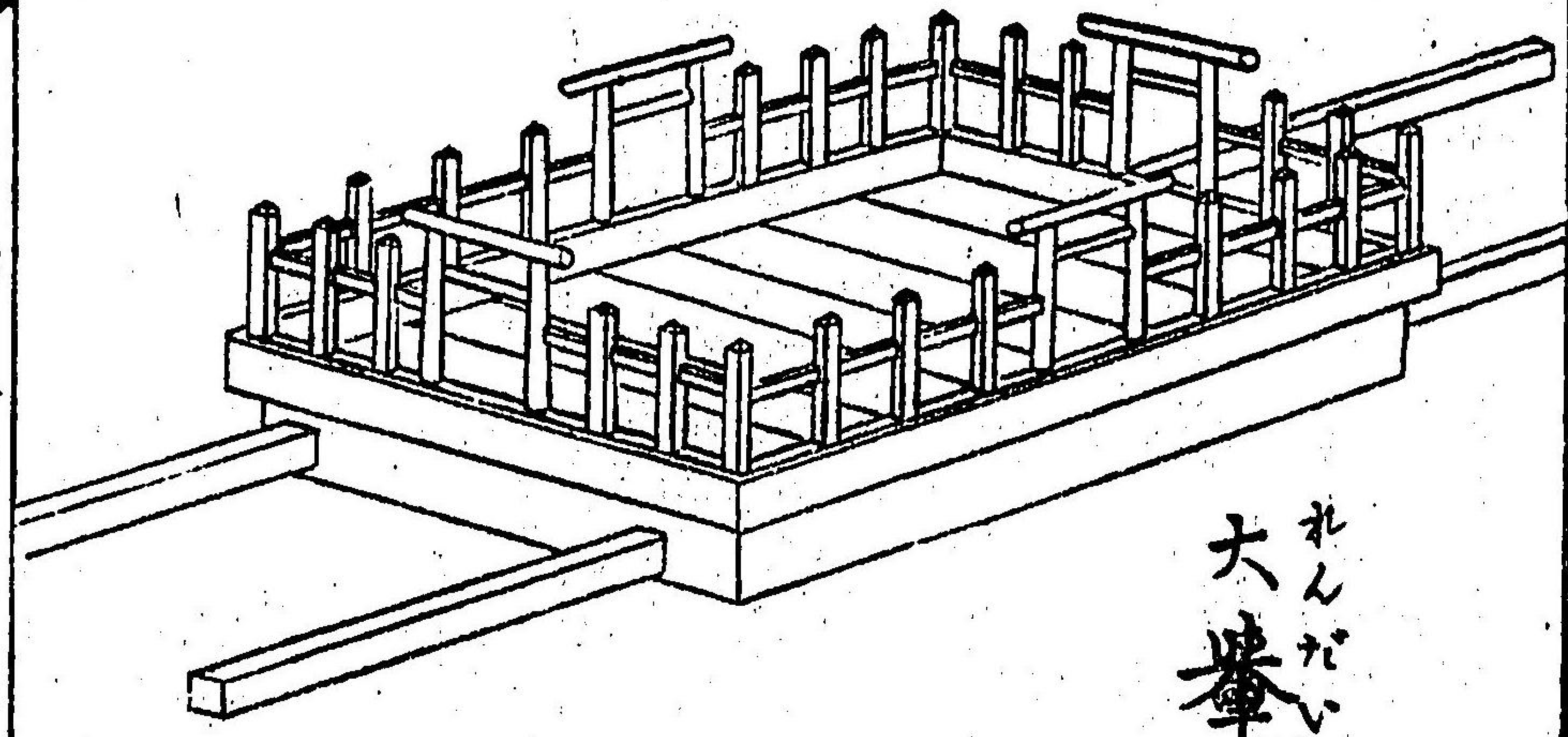
せしむる祭なきを戒べく丁寧は為  
 すべき  
 一年祭三年祭十年祭五十年祭百  
 年祭とも式法を茶の例の如し  
 但し是より後神祭も各自適量  
 多し

祝詞

光十九八七六五四三二一光  
 御長上ハ松王心天神天率天農御本恭  
 生徳天松農心取次給フ  
 天地海百勘カ勘農ニ納給フ



櫃ひつ

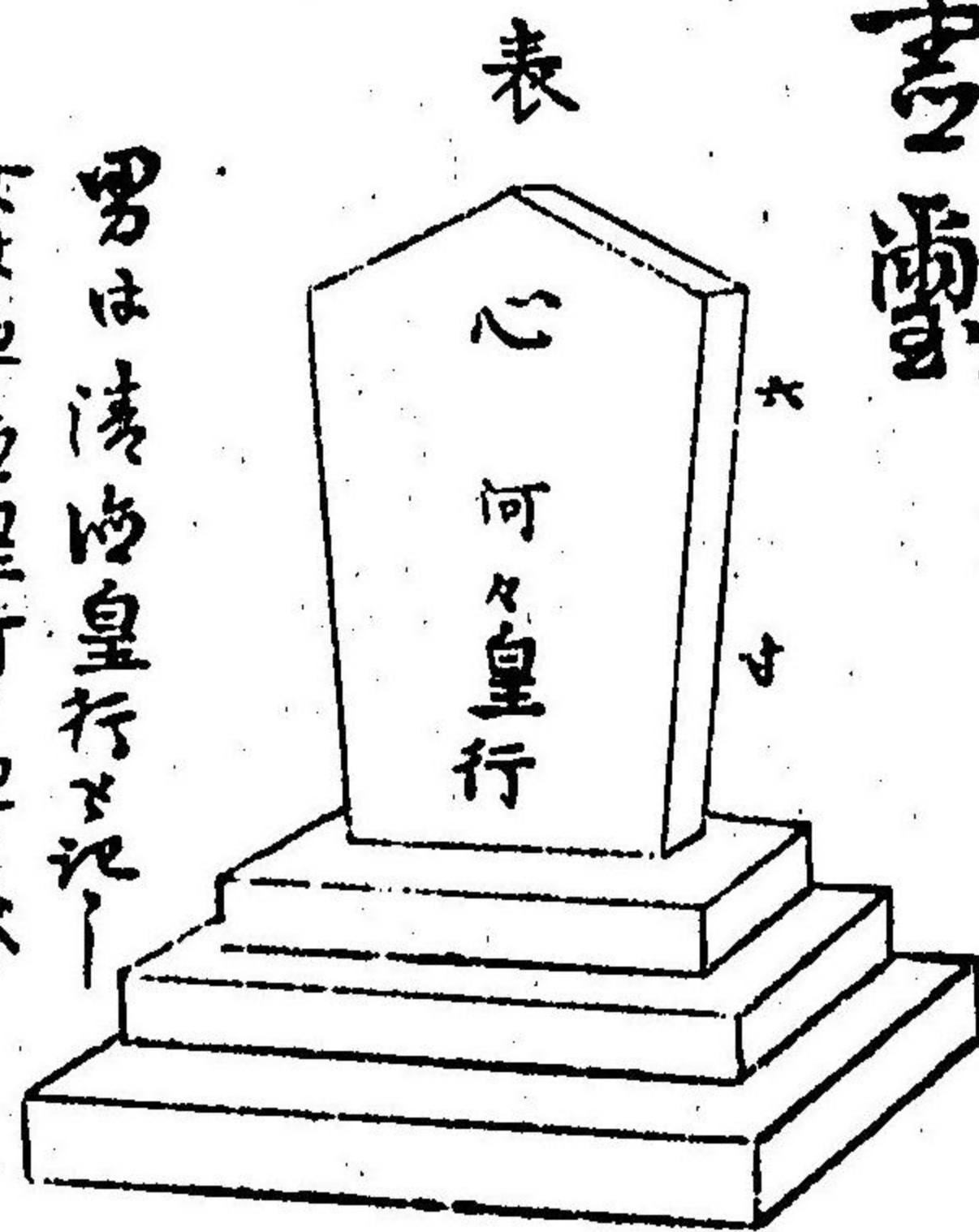


大庫おんたい



裏

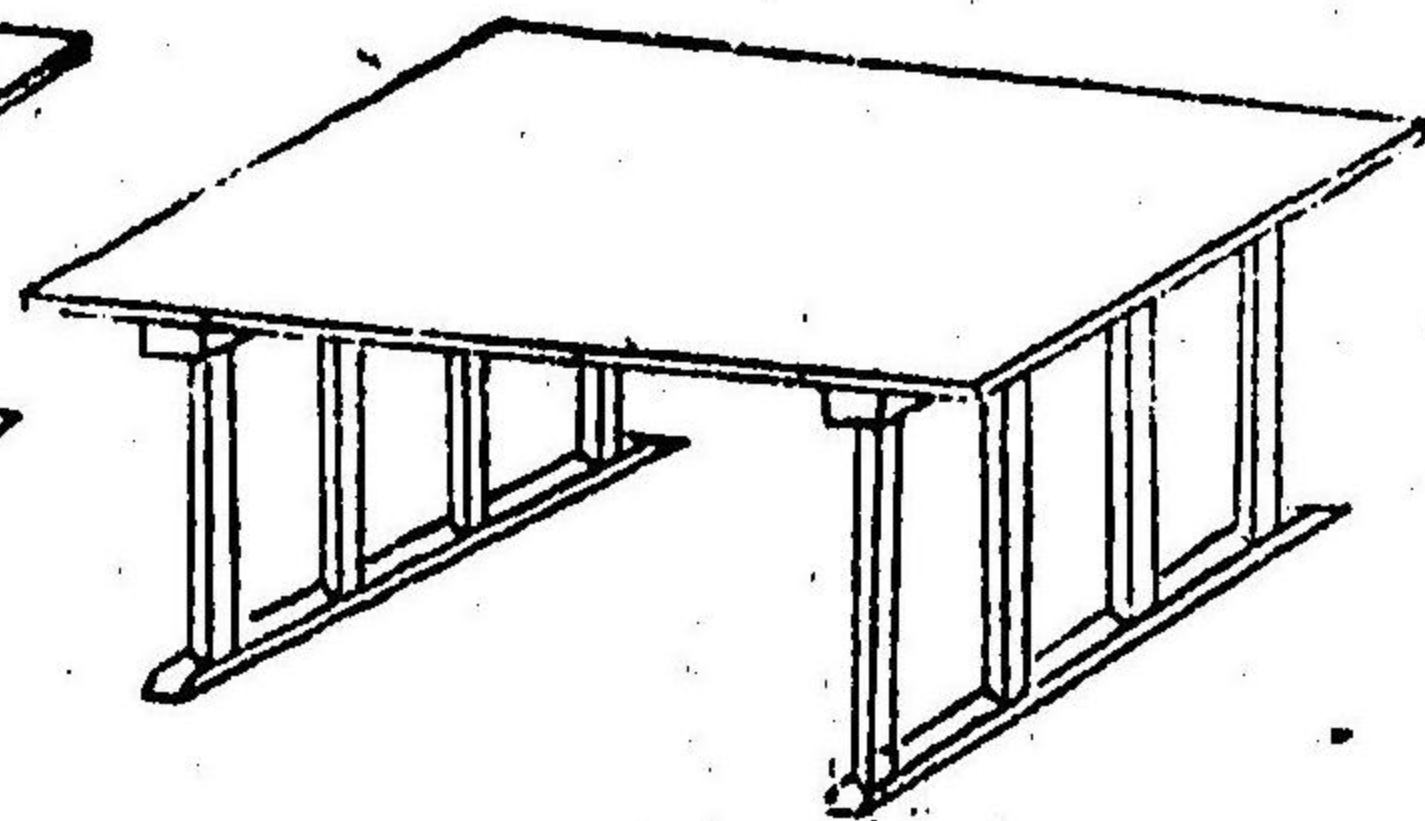
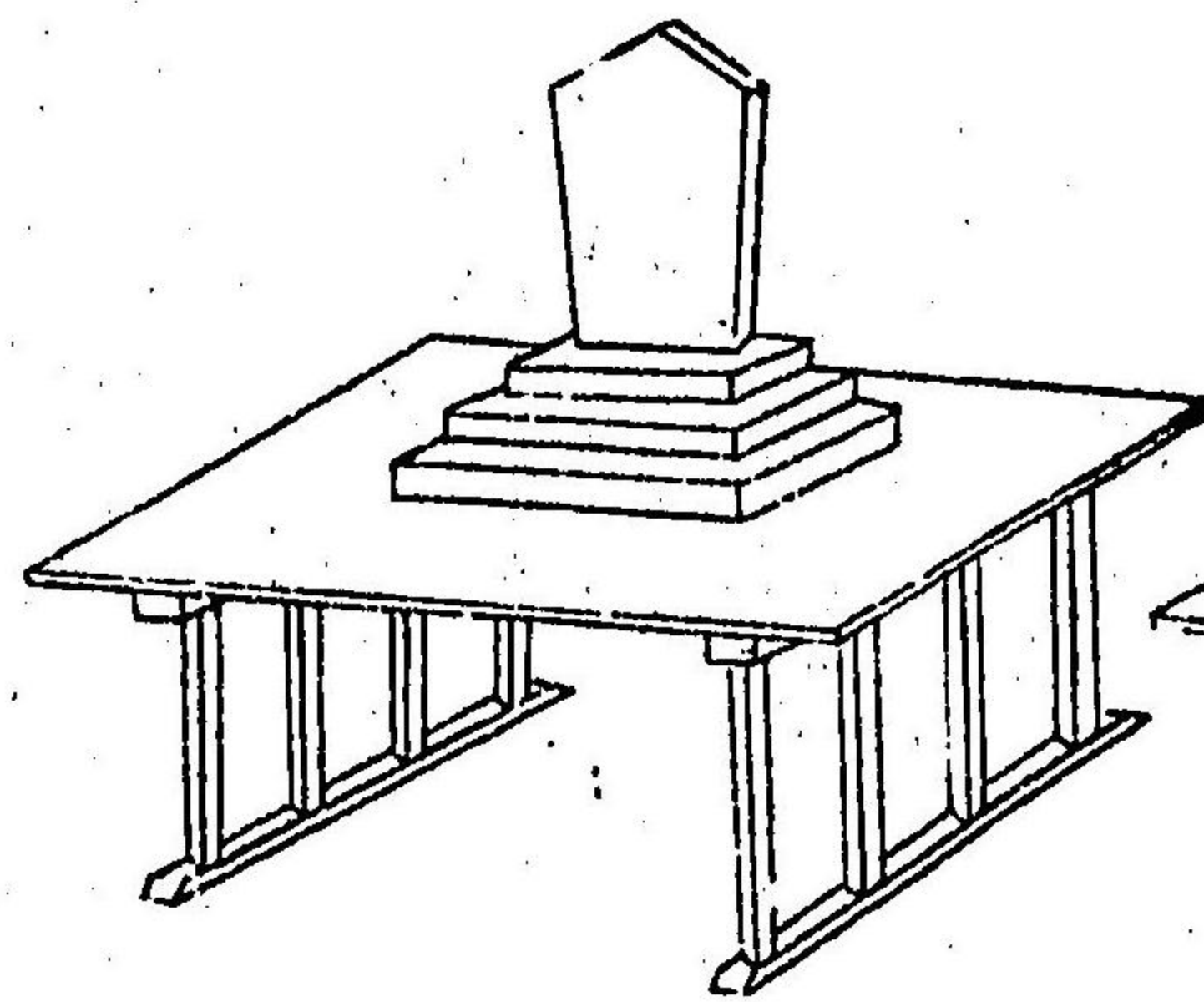
男は清徳皇行と記  
女は地母皇行と記



表

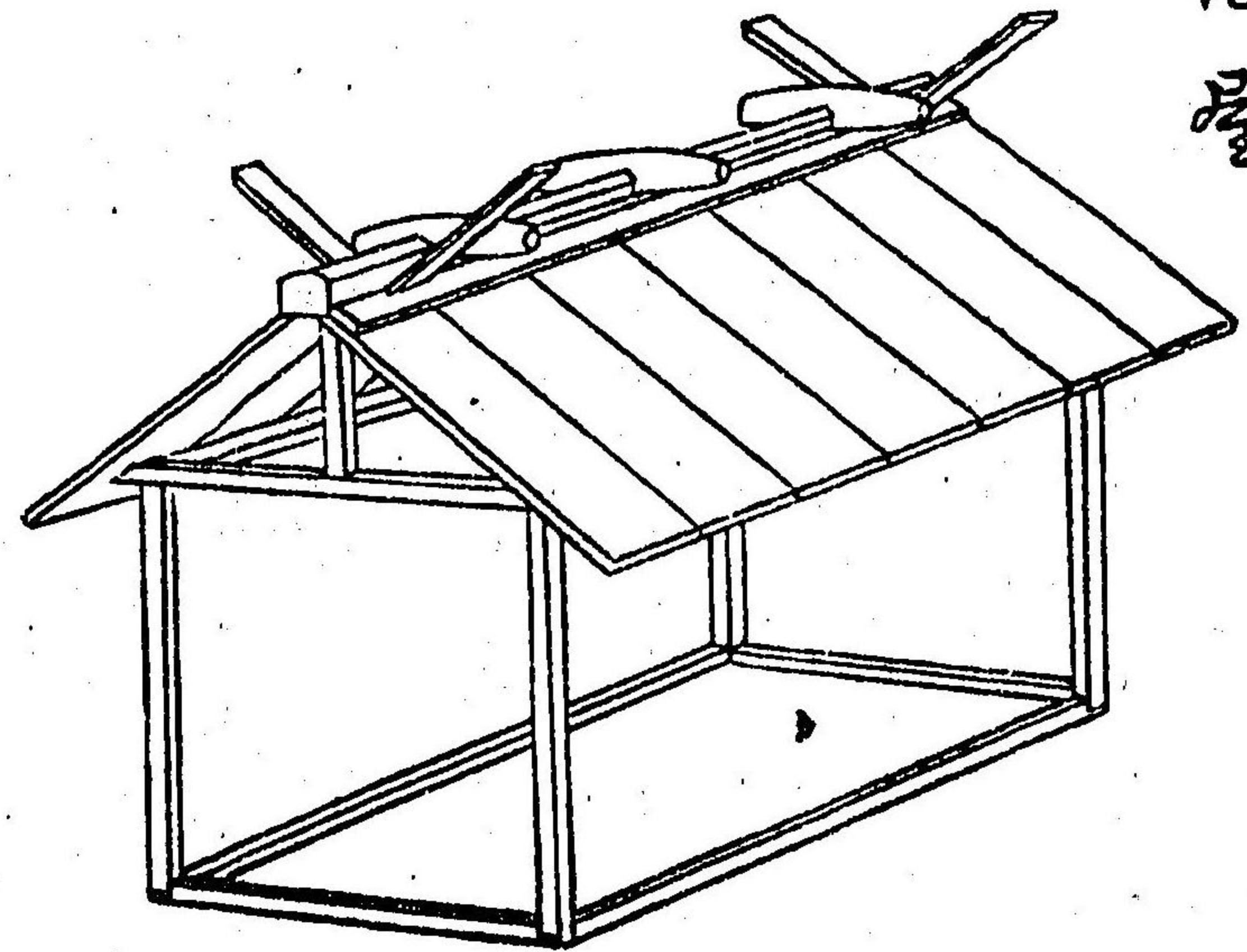
石  
たまらふ

石置の  
目

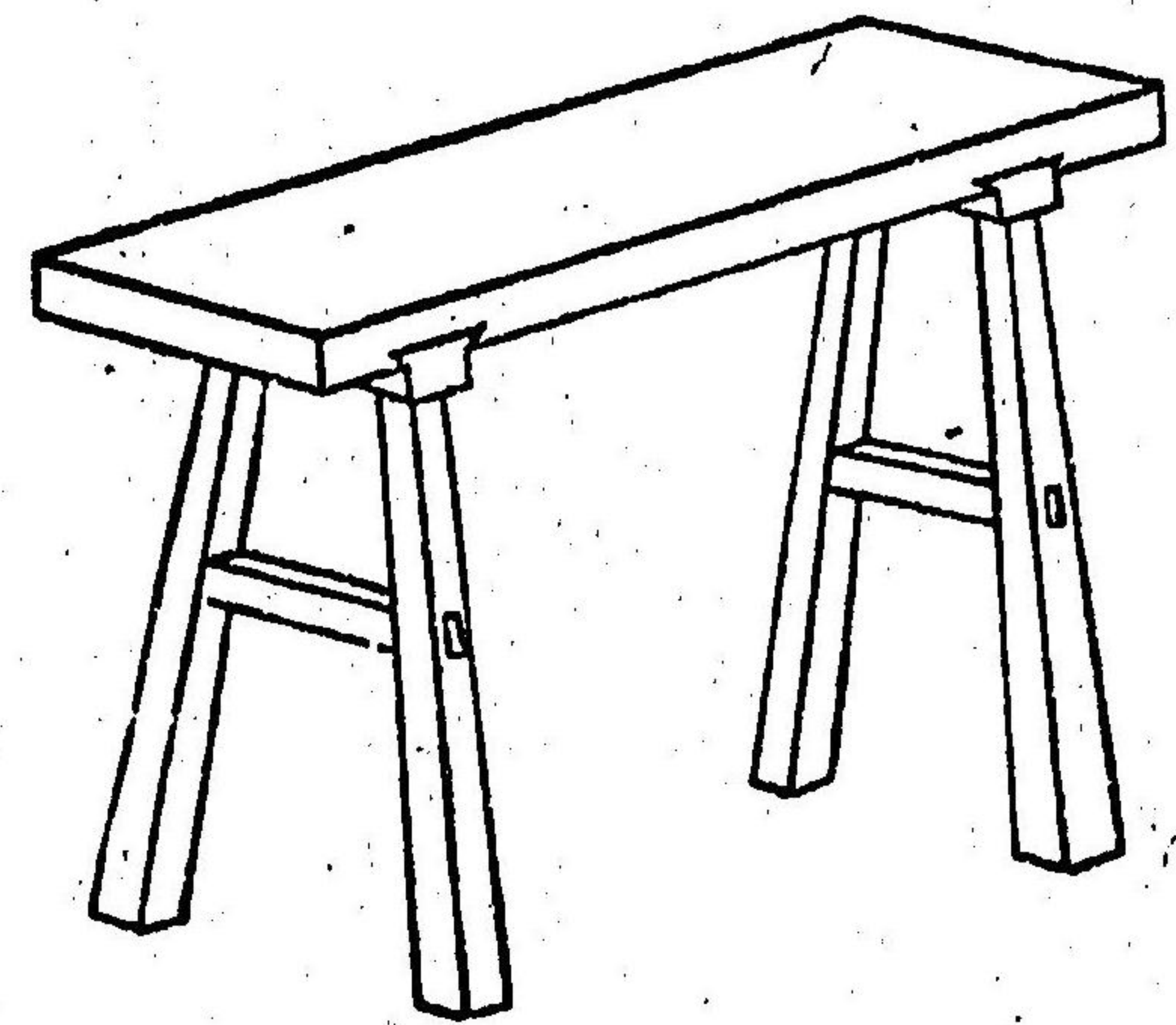


石置  
たまらふ  
案

申道丸山林院蔵梓



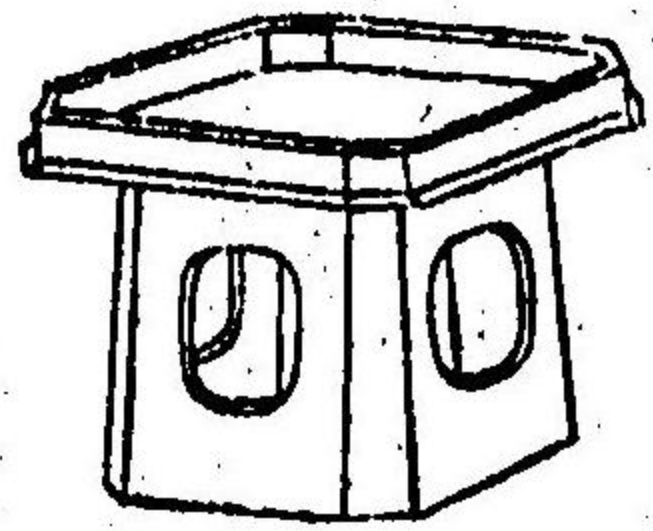
櫃  
ひつきのやね



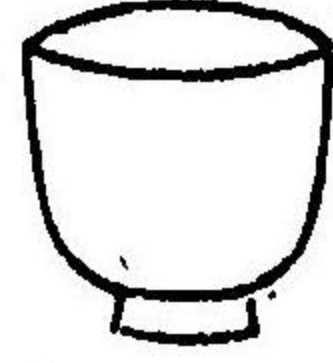
凳子  
こいだい

新道丸山林院蔵梓

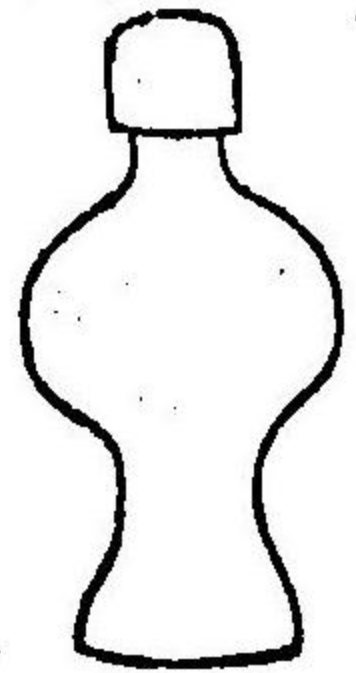
三  
宝



供  
水  
の  
器



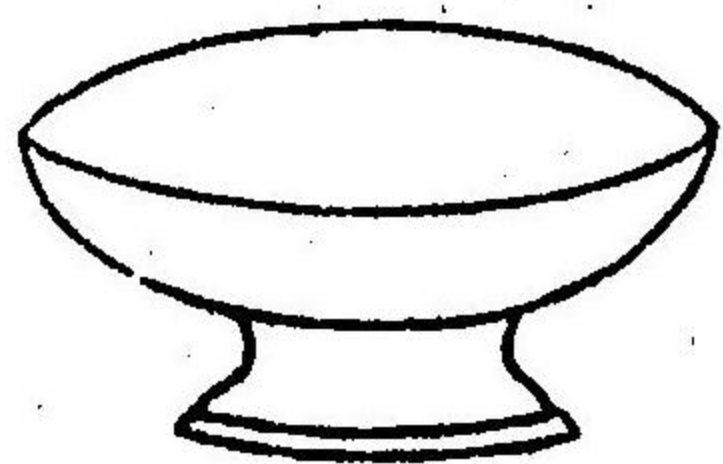
甕



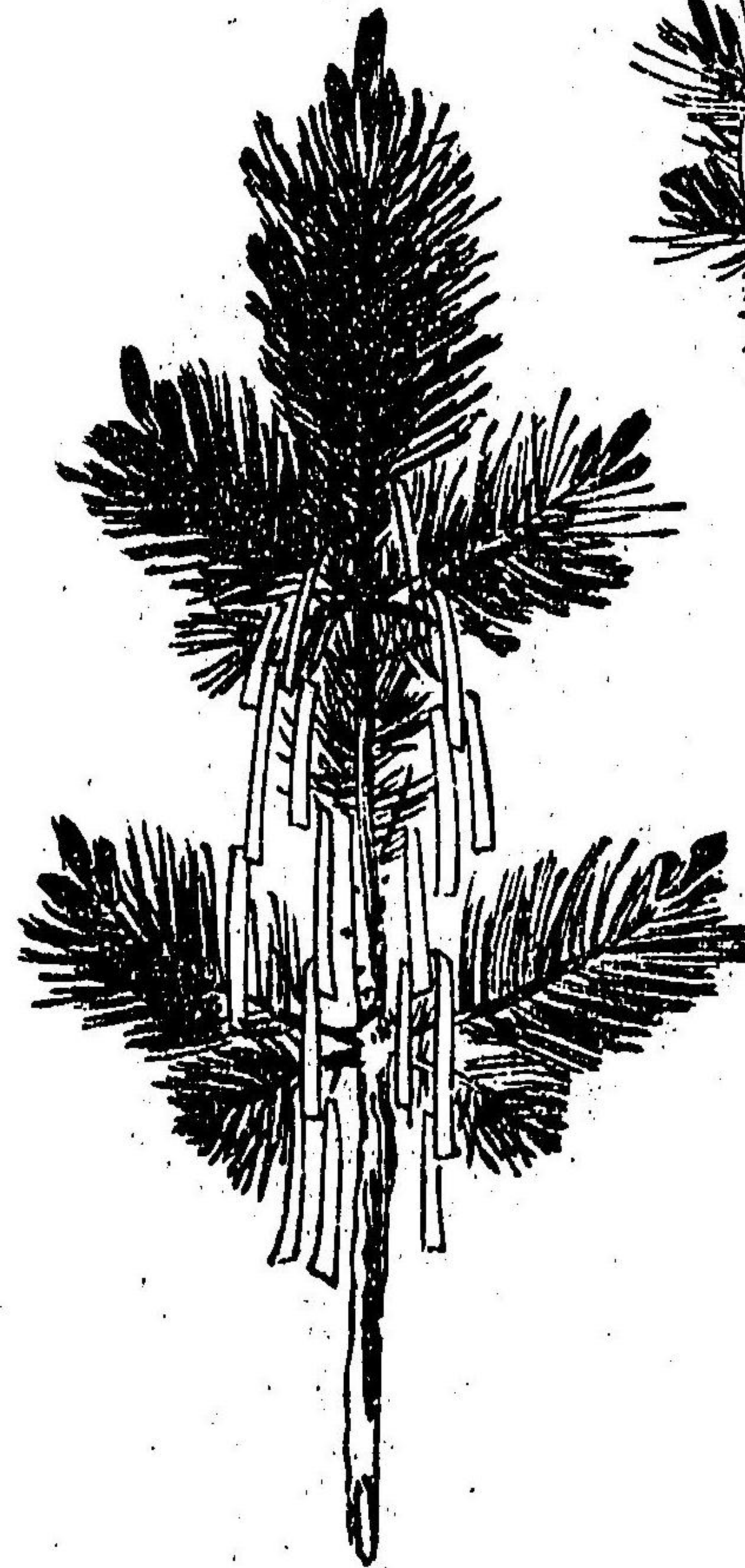
大  
杉  
の  
枝



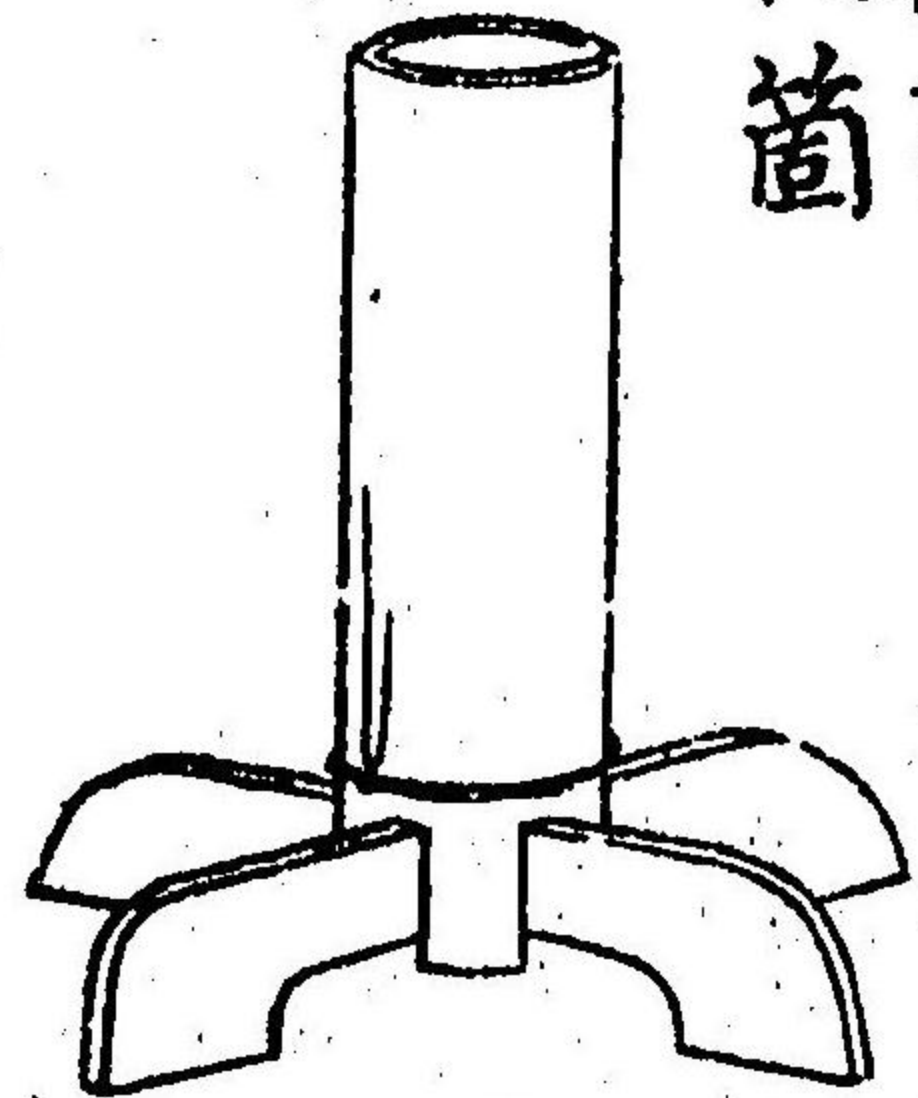
大  
杉  
の  
水  
盛  
の  
器



松  
花

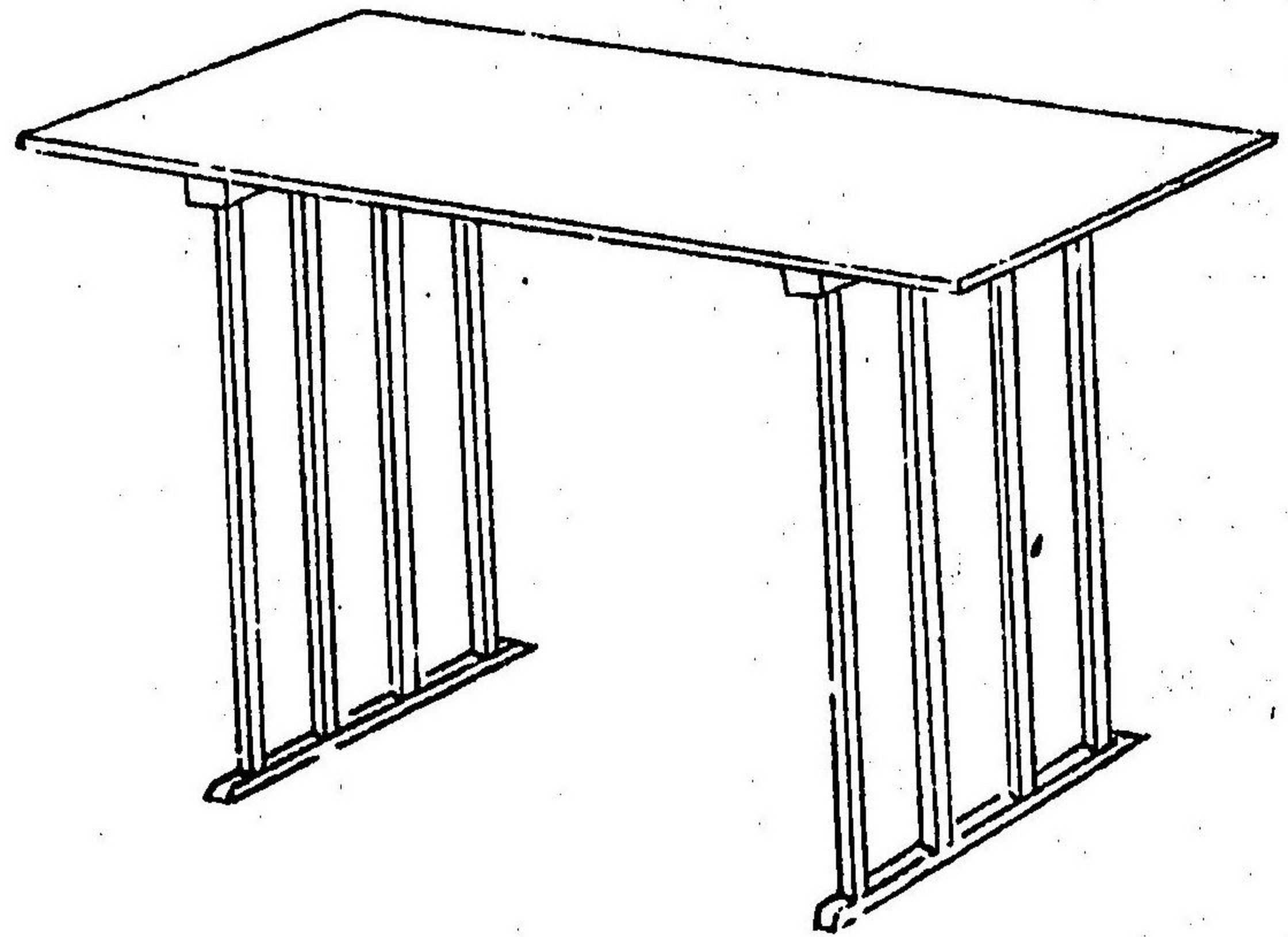


花  
筒

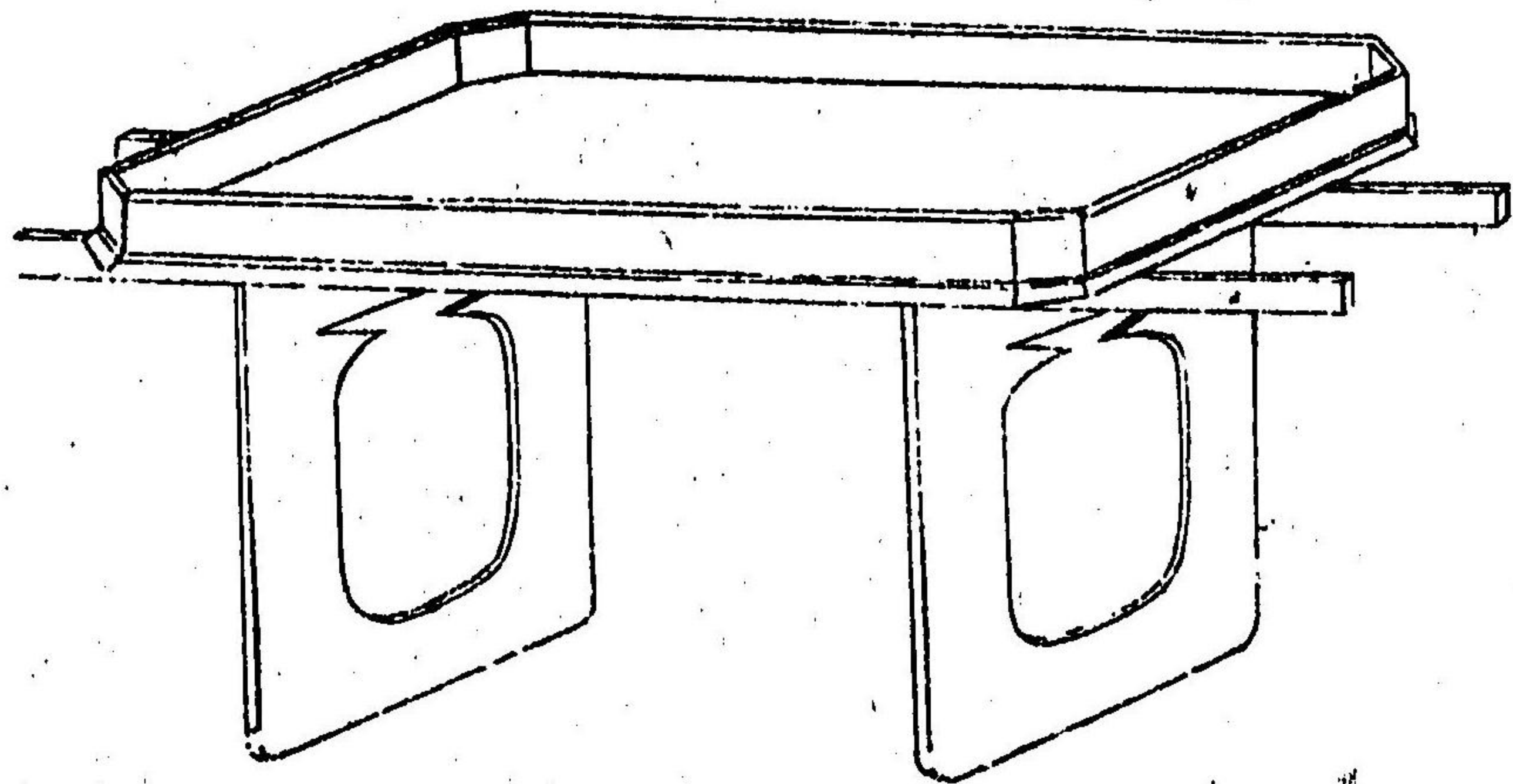


申  
首  
の  
大  
甕  
草

高  
案

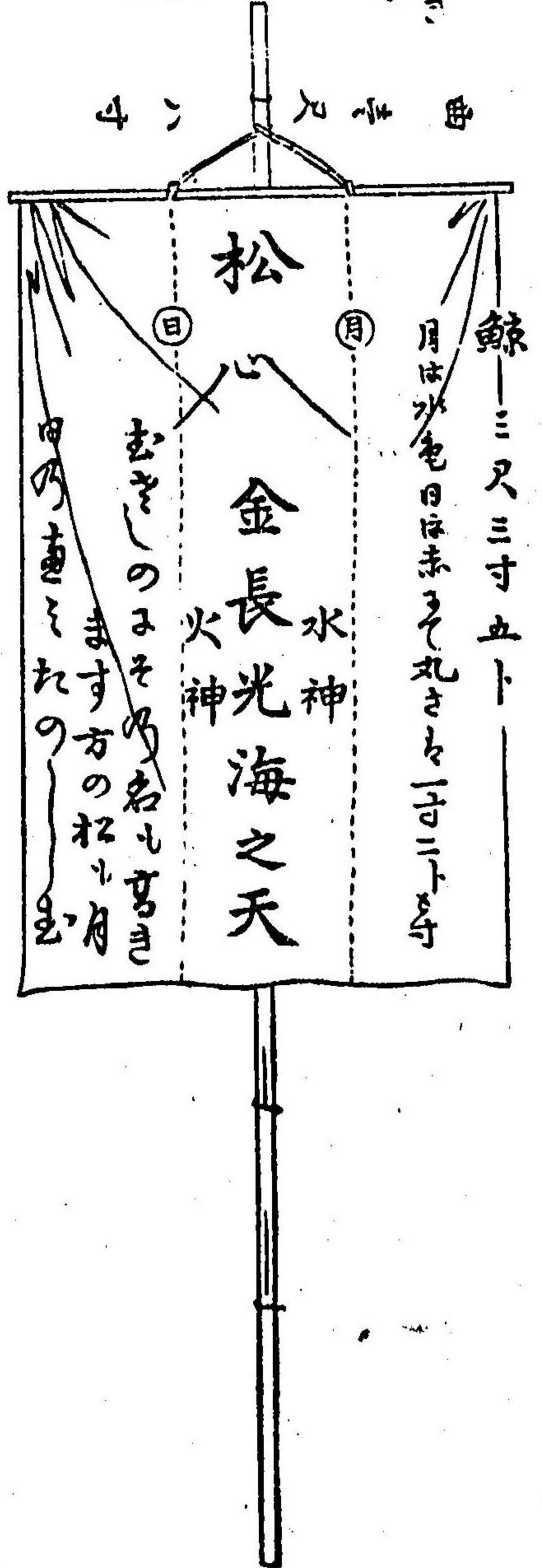


上  
等  
式  
神  
座



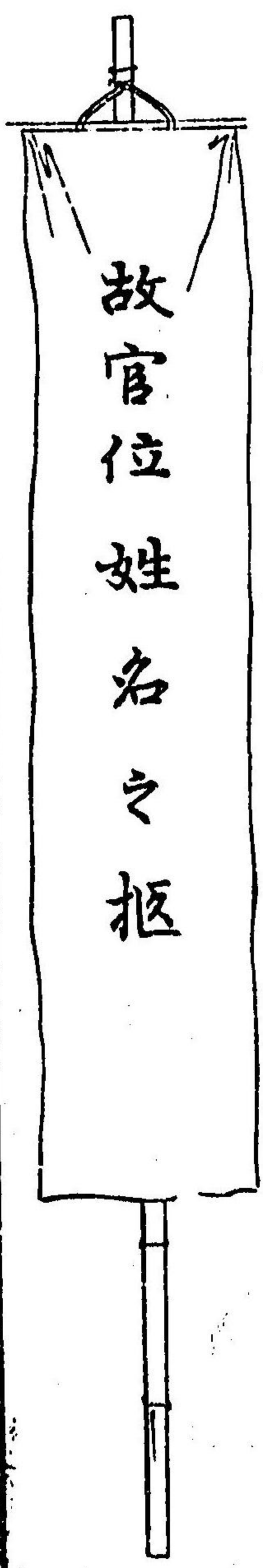
神  
座  
の  
大  
甕  
草

導 旗 五 色 旗 名



長き七尺五寸

長ナキ丈五尺



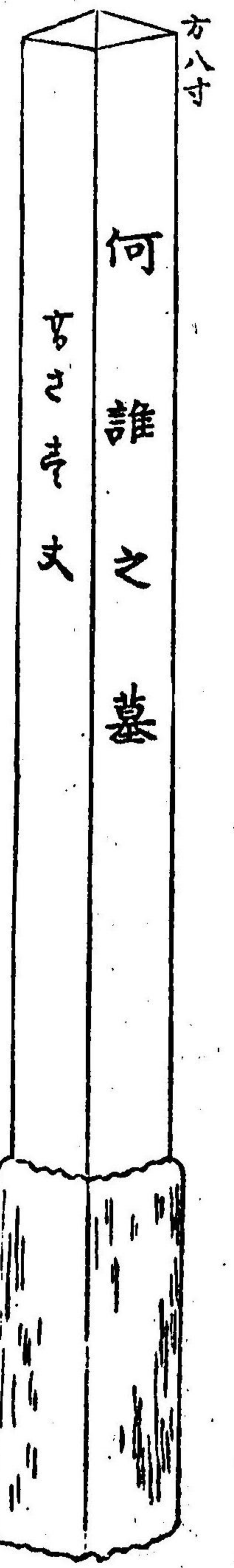
長き八尺五寸

白絹果々々は白木綿の糸を固め

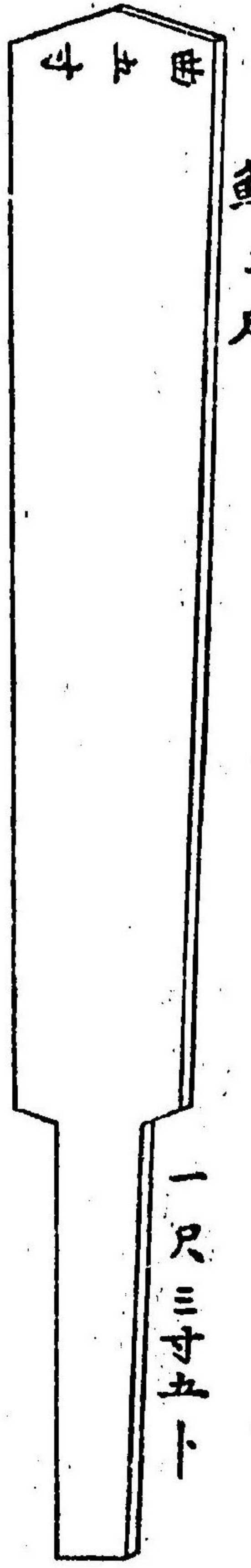
林道山ノ内所...

表子長十山と表一旗  
東子何と表二旗  
年子月日と表三旗

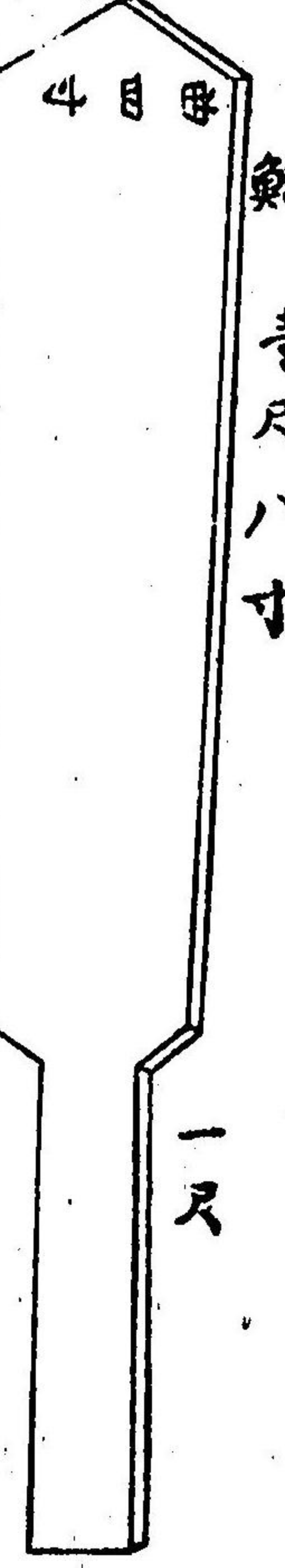
二旗と表四旗と表五旗  
長十山と表一旗  
何と表二旗  
日祭と表三旗  
年子月日と表四旗  
表五旗



方八寸



鯨 二尺



一尺



七寸



四寸

申酉乙未...



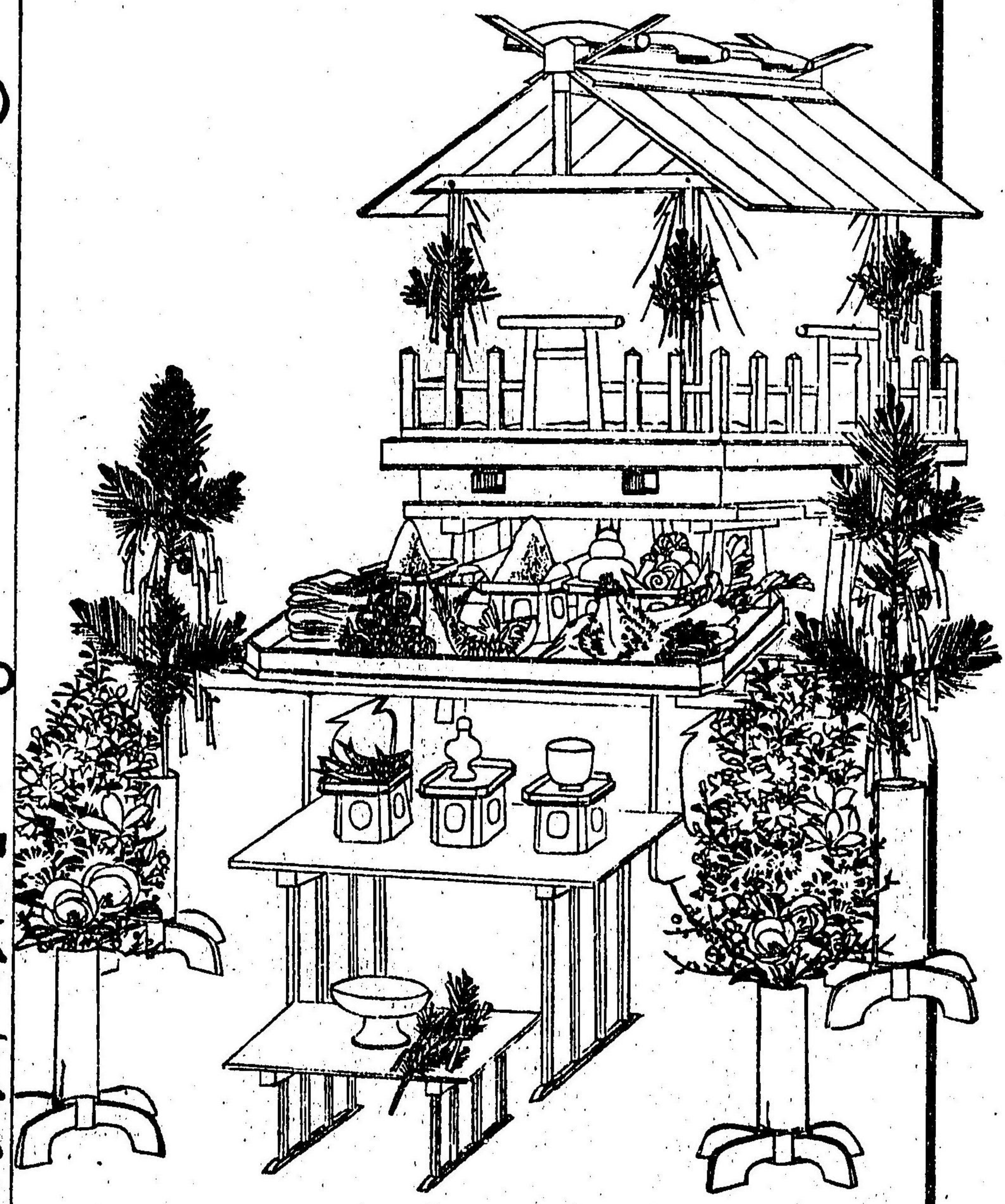
申酉九月廿九日



新道山門前

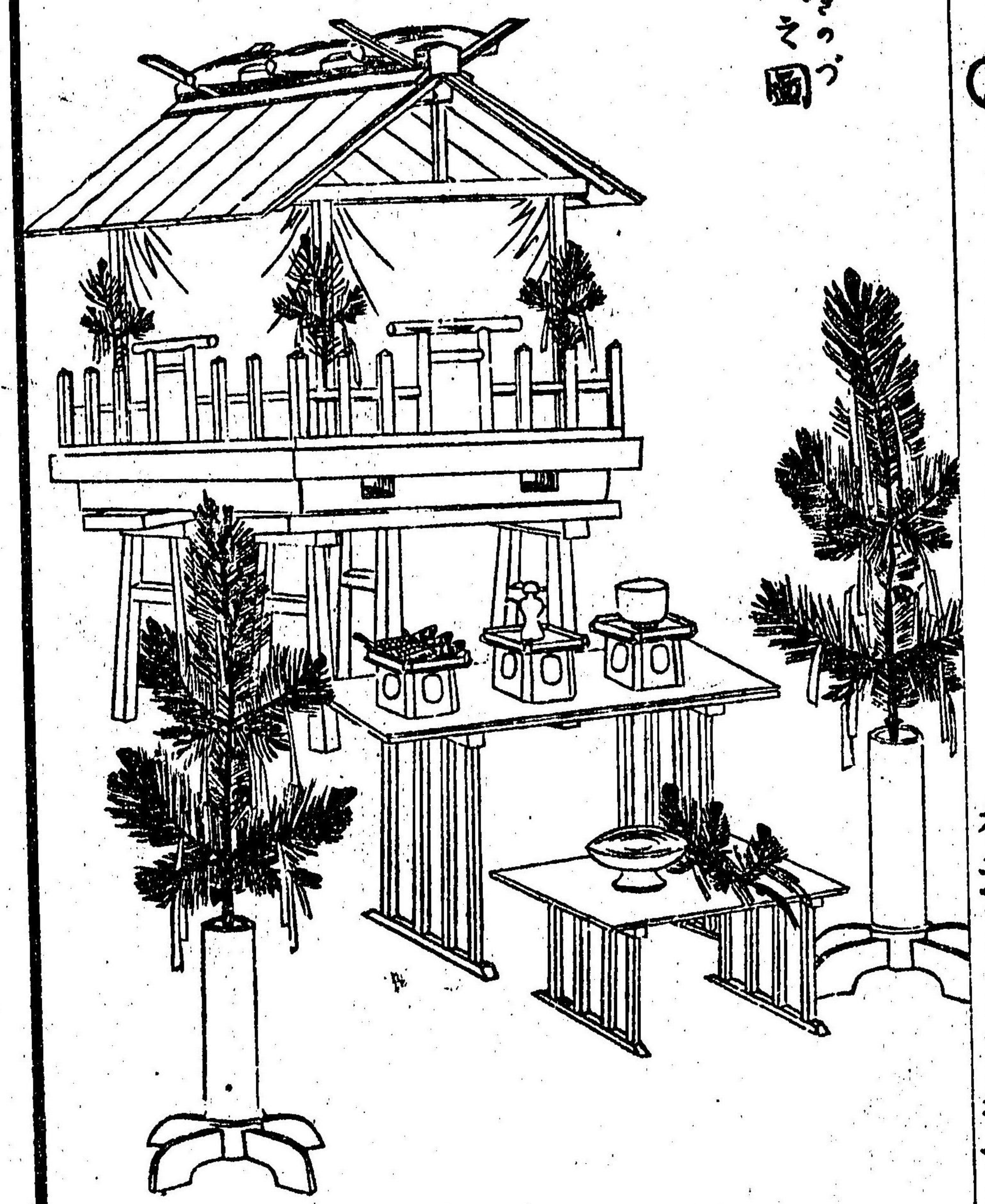


上り待式之圖



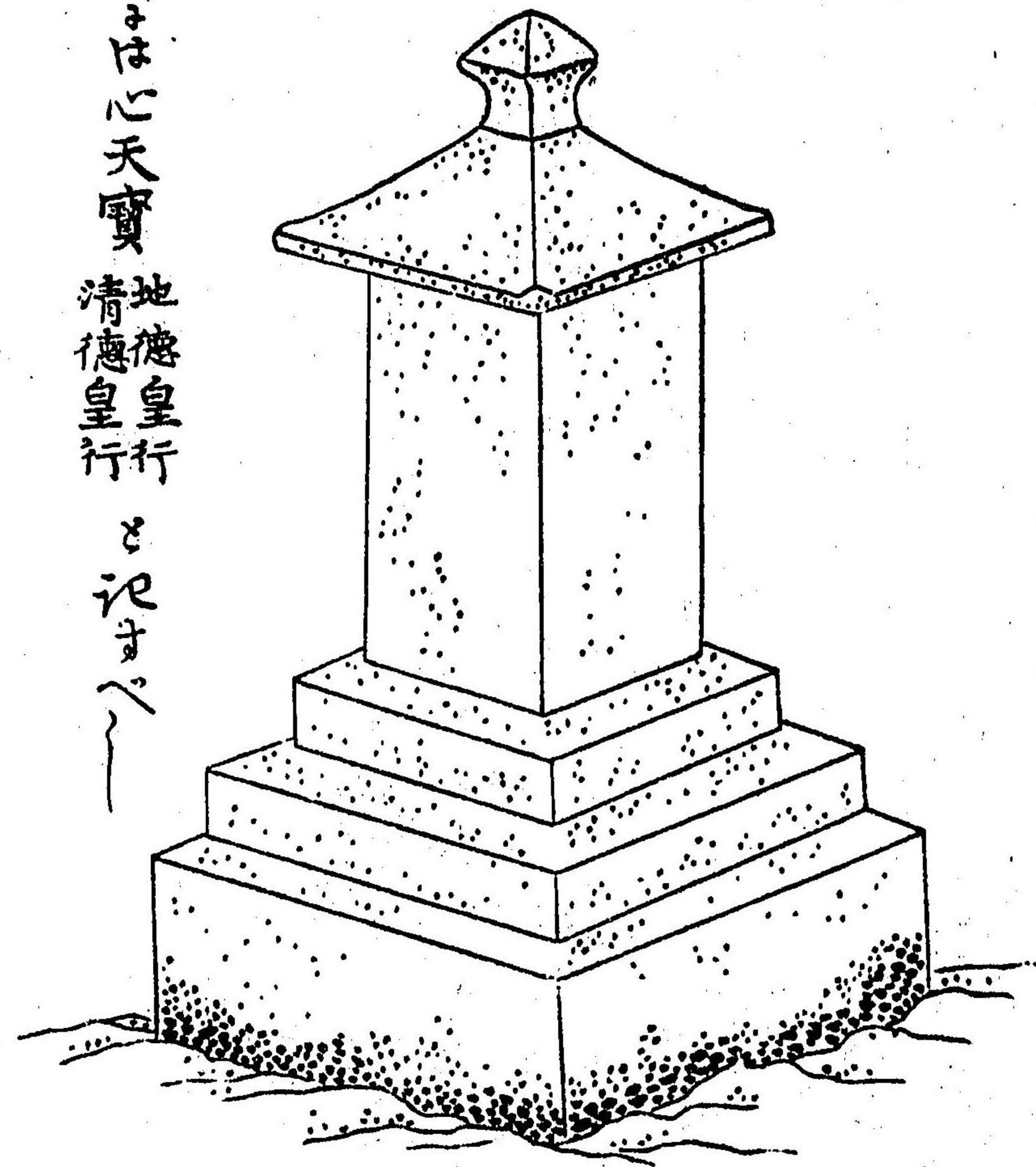
甲子ノケルノ儀

下り待式之圖



乙未ノケルノ儀

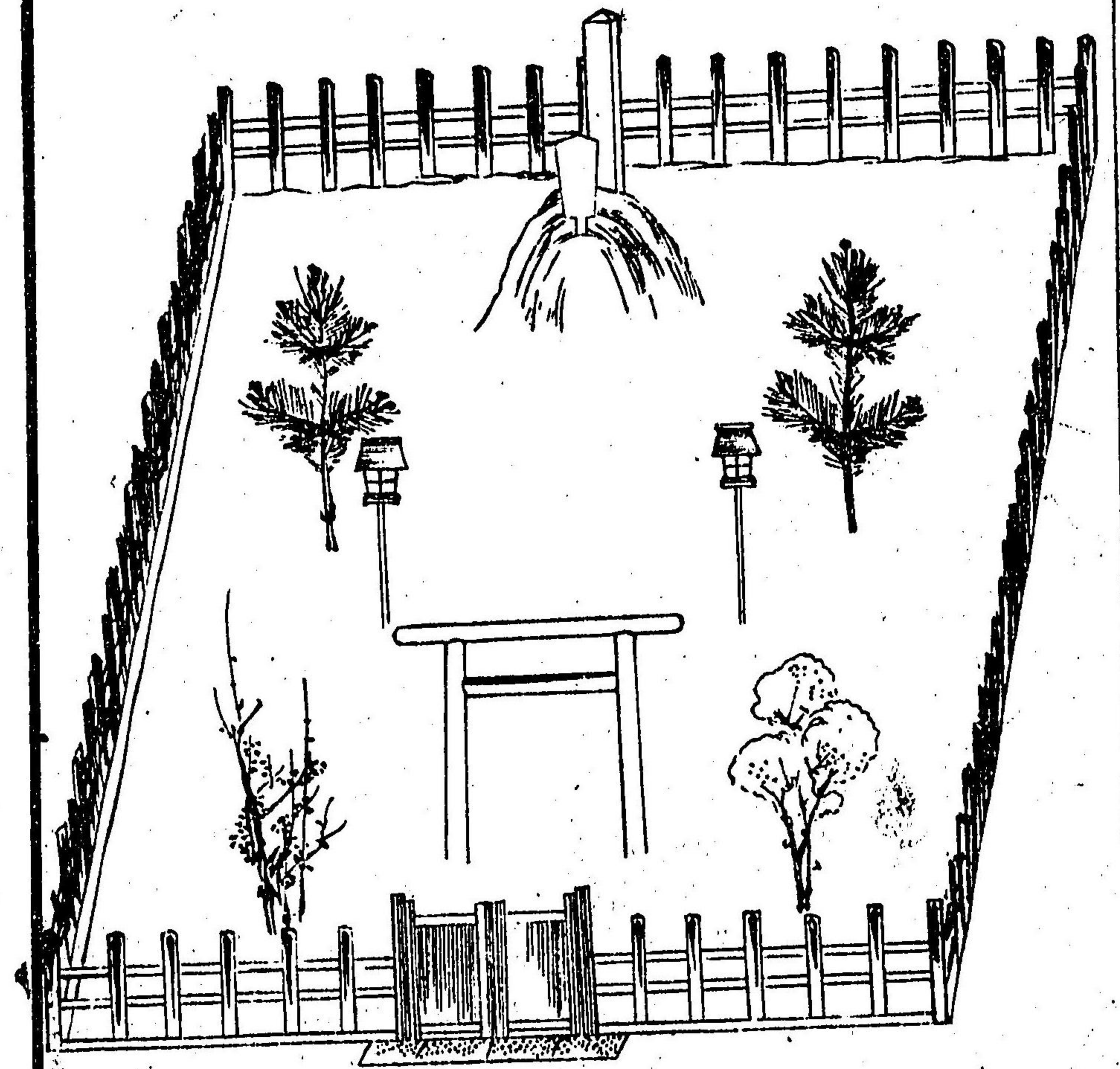
墓碑



墓碑は心天寶  
清德皇行  
と記すへ

申道元山不荒野

墓所の之の圖



和道元山不荒野

明治十九年十二月十三日御届

神奈川縣平民

編輯  
板人

伊藤國吉

東京府下芝區西久保  
巴町北四番地寄留

神奈川縣...

